



目次

2p	総合施設長より
3～6p	事業報告
7p	都事業紹介 & 新人紹介
8～9p	決算報告
10p	賛助会

休息の一日



NEVER GIVE UP

## 総合施設長の任に就いて2年…

はらからの家福社会 理事／総合施設長 中野悟

平素より、はらからの家福社会の法人運営にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。前任者の退職を受けて、総合施設長（現場の代表）の任に就いてから2年が経ち、その肩書にも少しずつ慣れてきました。一区切りというタイミングでもありませんし、まだまだ先は長いのですが、ここで少し振り返ってみたいと思います。

最初に触れたいのは法人の倫理綱領・行動規範である『はらからWay』についてです。法人理念の下、職員それぞれが大事にしていること、大事にしたいことを集め、実行委員が時間をかけて丁寧に形にしてくれました。準備自体は以前から進めていたのですが、結果として施設長交代と近い時期に完成となりました。はらからWayには

「私たちが目指すもの、振り返るもの」というサブタイトルを付けています。節目を迎えたはらからの家福社会が、これまでとこれからを考えるに当たって、一つ大きな基準ができたのではないかと思っています。

次に職員間の話です。2年前はまだコロナ禍真っ只中で、活動の中で様々な制限が続いていました。法人として大きな転換期であるとともに、支援の場においても大きな転換を求められる、そのような時期に始めたこととして常勤職員の全体会議があります。コロナ禍は法人内のコミュニケーションにも大きな影響を与えていました。離れた事業所の職員とは会う機会も減り、その時期に入職した職員同士は（マスクのせいもあり）顔も知らず、ほとんど話したこともないという状況でした。多職種連携やチーム支援の中で「顔が見える関係」とよく言われますが、まさに足元である法人内でそれが薄くなっていました。全体会議ではテーマを決めてのグループワーク、内部研修やケース検討などを行いました。前述のはらからWayについても何度も話し合いました。全員が揃う時間を作ることは大変ですが、事業所や経験を超えて様々な立場で話をしそれぞれの人となりを知ること、各事業のあり方や個別の支の支援

をはらからWayの視点から考え日々の業務に向き合うことは、これからの法人運営を考える上でとても有意義な時間になっています。

少しだけ個人的なことにも触れさせていただきます。冒頭で『肩書に慣れてきた』と書きましたが、肩書の重さが軽くなったわけではありません。負担そのものは全く変わらず、プレッシャーも変わりません。常に重さがある生活に慣れてきた、ということなのかもしれません。ただ、その重さは自分が1人で支えているわけではありません。一緒に働く職員、たくさん利用者、市内外の関係者の皆様、多くの方々に支えられて何とかつづれずに続けられています。

はらからの家福社会では昨年度に新事業（自立生活援助）を始め、今年度は事業拡大（グループホームのユニット増など）も行いました。私自身はもちろん法人としてもまだまだ発展途上です。これからも皆様に気持ちよく支え続けていただけるよう、まずは1つ1つのことに全力でぶつかっていきます。改めましてよろしくお願いたします。



# 令和5年度 地域生活支援センタープラッツ事業報告

地域生活支援部部長 毛塚和英

年間利用者状況	①対応種別 訪問 444件 ケースカンファレンス 121件 来所 850件 関係機関連絡 2,128件 同行 114件 電話 5,927件 メール 11件 その他 47件 ②来所（見学）利用者数 3,121名（5名↓） ＊1日平均来所者数 11.6名（1.0名↓） ③プログラム参加者数 170名（37名↑） ＊開催数 71回 ④宅配弁当手配数 233名（27名↓） ＊配達日数 100日 ⑤ボランティア活動 ボラ実人数 2名 ＊延べプログラム数 8回 ⑥その他 地域連携・交流 外部会議 210回 出向・出講 8回 家族会支援 7回（法人内事業連携含） 地域イベント（国分寺まつり参加） 1回
利用者の属性等	1.利用者総数 279名（60名↓） 地活登録利用メンバー 95名（5名↑） 男性 53名 女性 42名 新規登録 12名 更新 79名 再登録 2名 平均年齢 51.62歳 2.指定特定相談支援事業利用者 126名（3/31現在） 3.指定一般相談支援事業利用者 2名（3/31現在） 4.自立生活援助事業利用者 1名（3/31現在） 5.行政・事業者支援、研修開催、LP（ピアサポーター）活動 など
職員体制	○常勤職員：中野（管理者） 毛塚（所長） 玉木 角谷 山下 永井 石井 小野（6月より） ○非常勤職員：伊澤 保坂
開館状況	開館日数 269日（一部電話相談のみの開所）

## 〔令和5年度振り返り〕

強調すべき点として、「自立生活援助（事業）」開始と、コロナ禍で中止をしていたプログラムの再開を上げたいと思います。

自立生活援助は、現在一人暮らしをしている、または始めるにあたり、定期的な巡回等を通じて助言等を行い、暮らしの安心・安全を確保するサービスです。プラッツとして元々大切にしている支援内容ではありますが、障害者総合支援法において事業化されたこともあり、令和5年度より開始しました。全国的に利用者が少ない現状で、プラッツにおいても年度末時点ではお一人だけの利用ですが、引き続き普及することを検討していきます。

そして、プログラムについては、令和4年度に行ったメンバーアングレートを基に、以前より人気のあった「カラオケ」と「プラッツ食堂」を再開しました。5類感染症下の対策をしつつ、回数はまだ隔月に一回ではありますが、毎回、好評いただきました。

令和5年度も大きな問題なく支援を行えたのは各スタッフの真摯な取り組みと共に、ひとえにメンバーの方々のお力を頂いてのことと感じております。改めて感謝申し上げます。

## 〔令和6年度活動展開にあたり〕

特記するものとして「東京都精神障害者地域移行促進事業」を再受託したことをあげたいと思います。

都事業開始の平成16年度から令和4年度まで受託をしておりましたが、昨今の精神科病院で起きている人権問題を発端とした地域移行支援への期待や、市内や近隣地域からのLP活動（ピア活動）へのニーズの高まりを受け、改めて手をあげることにしました。

その他としては、市内における計画相談利用増への対策も国分寺市より求められており、都事業も計画相談も地活の支援も、と、業務過多となる現場体制は引き続きの検討課題ですが、今年5月より非常勤を1名採用し、業務担当の見直しも行い、メンバー支援に影響が起きない体制作りに、これからも尽力していく予定です。

最後に、プラッツとしてこれからも「地域移行」と「地域生活支援」、「LP活動」を命題として活動していきます。未だに『人権擁護』に関する痛ましい事件が続いていますが、それに対する活動が行えるよう、法人理念を全うする事業所の気概を失わず、様々な活動や提案を行っていきます。今年度もどうぞよろしくお願いたします。

# 令和5年度 ピア国分寺事業報告

## グループホーム・ショートステイ

居住支援部部长 中野悟

昨年度は新ユニット増設に向けた動きに明け暮れた1年でした。一昨年度にユニット増を計画し、昨年度は具体的にその準備を進めました。年度当初から何ヶ所か内見等させていただきましたが、なかなか自分たちが求める物件に出会えないまま時間だけが経過していききました。年末に差し掛かりようやくいい物件が見つかり東京都へユニット増の申請を行いました。物件を探し始めてから丸1年かかってしまいました。今年度4月1日に無事新ユニット『ピア国分寺式番館』を開所いたしました。新ユニットについては前号（68号）でも触れているので改めてお読みいただければ幸いです。さて、ここからは通常の昨年度の報告です。グループホーム（4ユニット、定員26名）の年度内入退去は、入居者10名、退去者10名でした。年度前半は少し空きが多い状況もありましたが、後半になるにつれて問合せも増え順次埋まっていきました。ここ数年の利用される方の変化（若い方からの問い合わせや利用が増えている）は昨年度も同様の傾向でした。そのため、これまでは参加していなかった分野の研

修に参加するなど対応の幅を広げることも意識しています。また、昨年度の大きな動きとして国分寺市と協議を重ねてきたミドルステイの始動があります。ミドルステイは国分寺市の地域生活支援拠点における体験の機会・場の機能として位置付けられており、最長3ヶ月の利用を通して今後の生活を考える上での材料集めをしていただくような事業です。昨年度末から今年度初めにかけて初の利用がありました。実際利用された方の感想をお聞きしましたが、「一人で生活するなんてイメージもできなかったし、勇気も持てなかった。体験をすることで少しはやれるんじゃないかと感じた」と、とてもポジティブに話してくださいました。まだまだ利用実績は少なく、今後も検討を重ねながらはなりますが、それでも新たな選択肢が持てたこととはとても大きいことだと感じています。東京都から受託している「グループホーム活用型ショートステイ事業」については、延べ110日の利用がありました。数としてはほぼ令和4年度並みとなっています。コロナ

禍で利用数が大きく減ってしまつて以降、なかなか数が戻ってこないのが現状です。病院における退院支援の動き、具体的には病院への訪問や面会、外出、外泊などについては徐々に制限は緩くなつてきてはいるようですが、それでも以前と同様というわけにもいかず、直接退院につながる体験のための外泊等であっても一定の制限がかかっていることもあります。もちろんただ数だけを増やせばいいということではありませぬので、1回1回の体験をより濃いものにしていけるよう体制を整えていきたいと思ひます。

〈令和6年度は…〉

今年度においては何か特別な目標があるということではなく、新ユニットやミドルステイ含め、これまでやってきていることの進化・深化がポイントになるかと思ひます。そのためにもフォーマツトの見直し等含め、業務効率を上げていくような試みも進めていければと考えています。



## 令和5年度 さつき共同作業所事業報告

### 就労継続支援B型／自立訓練（生活訓練）

通所訓練部部长 作道康介

さつき共同作業所は、利用者がそれぞれの目的や希望を叶えるために、あるいはそれを見つげるために、自分とも向き合いながら様々な取り組みができる場でありたいと思っております。成長したい、変わりたい、個性を活かしたい、仕事をしたい、生活のリズムを整えたい、コミュニケーションを学びたい、安心して過ごせる場所がほしい。そういったいろいろな思い、いろいろな課題を大切にした事業運営を目指しています。

令和5年度は、活動の拡充や環境整備に向けた取り組みを行いました。

外作業及び室内作業の受託を増やし、より多くの方が作業できるようにしました。また外出プログラムや行事プログラムを増やし、作業以外のレクリエーション活動にも前向きに取り組みました。会議プログラムも増やし、皆で話し合うという活動もより多く取り入れながら利用者の意見や思いを反映させられるよう努めました。

1階トイレの改修工事を実施し、衛生的で使いやすいものに、且つ共通トイレを増設しました。また管理上の理由もあり十分に活用できていなかった2階スペースを開放し、作業や休憩場所を分散できるようにし、余裕を持つて過ごせるよう努めました。

課題として感じているのは、個々の状況への配慮に努め、より柔軟に対応できる形に変えていくことで、多くの方が利用できるようになる一方で、どうしても取り組み方や考え方の違いが生じることもあります。枠組みや公平性も担保しながら、個々を尊重していけるようバランスを考えていきたいです。

#### 【就労継続支援B型】

多様な作業を提供し、多くの方が作業を通して個別の課題に取り組むことができるよう支援したいと思っております。そのためにまずは室内軽作業の種類を増やし継続的に提供することにより、作業提供の安定を図りました。

受託作業を増やすべく、「東京都障害者施設生産活動応援センター」への登録と業務受託、「東京都セルフセンター」の会員登録をしました。また、市内事業所連絡会であるお仕事ネットワークの共同受注に積極的に参加し、複数の内職作業に取り組みました。ハンドメイド作業においては、販売会に積極的に参加して自主製品の販売機会を大幅に増やしました。また作業をより細分化することで、多くの方が作業に取り組めるように努めました。技術の向上としても、プロの陶芸家の方に来てもらい継続的な勉強会を実施しています。

課題として見えてきたのが、より多くの方が作業に取り組めるようになっていく反面、このままの時給額だと工賃支出が収入を上回る可能性が出てきたことです。時給額を下げず平均工賃額を保つあるいは向上させるために、作業収入を上げていけるよう努めたいと思っております。

#### 【自立訓練（生活訓練）】

室内作業の充実を通して作業提供の安定化を図ることは、生活訓練においても同様の目標として取り組んでいます。あわせてプログラムや行事を充実させていくことも積極的に取り組んでいます。

訪問による生活訓練はニーズも高く、ご自身の生活環境の中でトレーニングできる有効な支援だと考えており、訪問支援利用者の受け入れを積極的に行いました。訪問支援の流れやスタッフ配置の整備を行いながら、軌道に乗ってきた印象があります。状況に応じて柔軟な支援が行えるよう、スタッフ体制の充実を図りたいと思っております。一方で、訪問支援から通所利用の可能性を検討できるようにすることや、通所利用における生活訓練要素をより充実させていく必要性も感じていきます。

悩みながら、迷いながらではありましたが、さつきとしてどう変わっていくことが、あるいは変わらないことがより良いサービス提供につながるのか、考え続けた1年であつたように感じます。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

# 令和5年度 ネットワーク推進事業部事業報告

ネットワーク推進事業部部长 岡本和子

ネットワーク推進事業部は、精神の病  
気や障害を医療や福祉の切り離された  
視点で捉えるのではなく統合的に考え、ま  
た、医療や福祉の双方から取り組みにく  
い狭間にある課題に注力しています。

その実践として、福祉の視点から精神  
科クリニックを創設するという挑戦は、  
現理事長である藤田が平成22年に「医  
療法人社団国分寺すずかけ心療クリニ  
ック」（略称すずかけ）を開業し、社会福  
祉法人はらからの家福祉会（略称はらか  
ら）から私が出向することでスタートし  
ました。

しかし、はらからとすずかけは連携を  
しつつも、囲い込みに絶対ならないよう  
にと心がけています。すずかけの患者さ  
んが福祉事業所を利用する際には、はら  
からは選択肢の1つに過ぎず、又ははら  
からの利用者さんの通院先やデイケアが、  
すずかけに限定されることもありませ  
ん。利用者さんが多くの選択肢の中から  
主体的にご自身で選ぶことが大事だと  
考えています。

## 【令和5年度 事業報告】

### ① 国分寺すずかけ心療クリニック

多職種チームで様々な機関と協力し、  
外来・訪問診療・訪問看護・デイケアな  
どを実施しています。新型コロナウイルス  
感染症が5類になりましたが、デイケ

アでは安心して集まりたいという  
思いがありました。そのためマスク  
や消毒等の感染対策を変わらず行  
う一方で、入室できる人数の制限を  
外していきました。コロナ禍で身に  
ついた距離感もあるため、個々のニ  
ードを尊重しつつ、デイケアやナイ  
トケアを実施しました。ZOOMを  
皆で共有して資料等を見るなど、コ  
ロナ禍で得た方法は引き続き利用  
しました。

2月に開催された日本心理教育・  
家族教室ネットワーク関東大会で  
は、デイケアの皆と、分科会で発表  
したり、手作りの品々を出展して販  
売したりと、準備や実行にバタバタ  
しましたが、充実した貴重な時間を  
過ごすことができました。

学芸大学の福井里江氏と令和4  
年よりオープンダイアログを行  
っています。1つの解答を求め  
るのではなく色々な思いがきちんと  
かれ応答される時、味わい深い状態  
になるのを感じます。

### ② 地域ネットワーク多摩（通称ち たま）

国分寺を含む近隣市の福祉事業  
所・医療機関・家族会等が顔の見え  
る関係となり、現場実践しやすくす

るための団体です。

オンラインと実際に会うことの両  
方を駆使しながら、定期的に会合を行  
いました。今年1月21日には、「滝山病  
院事件の現在地〜自分たちの問題と  
して〜」というテーマで、フォーラム  
を開催しました。我が事として第一線  
で活動されている方が集まっ  
てくださいました。シンポジストに相  
原啓介氏、青山浩平氏、持丸彰子氏、  
細江昌憲氏が、指定発言に植松和光  
氏、伊澤雄一が、ファシリテーターに  
ちたまから寺田悦子氏、プラッツの毛  
塚和英が臨みました。身を粉にして立  
ち向かう姿勢に及びはしませんが、精  
神の分野で働く者として、人として、  
ともにありたいと思いました。

### ③ 国分寺あゆみ会（略称あゆみ会）へ の協力と協働

会議に参加させて頂き、書類作成等  
のお手伝いをさせて頂いております。  
ご息だけでなく、高齢化したご自身  
の体調も色々ありながら、協力し合っ  
ている役員の方々のそばにいさせて  
もらうだけで、人生勉強になることを  
感じています。

家族を支えたいと考えている多摩

地区のいくつかの病院が集まった多  
摩心理教育ネットワークでは、コロナ  
禍で研修ができなくなったことをき  
っかけに研修材料をビデオ化し、合同  
研修を行いました。

### ④ 日本心理教育・家族教室ネットワーク関東 大会への参加

大会の事務局として発表者として、色々な立  
場に参加させて頂きました。総参加者数は859  
名（そのうち当事者・家族・学生が4割）、登  
壇者や関係者を入れると延べ1152名の方の参加  
を頂きました。皆ができるだけ平場で、薬や治  
療・ケア、新しい方法や安易に使いがちなりカ  
バリ、受容などの言葉など、そもそもを見直  
そうとする大会でした。はらから、すずかけ、  
家族会、ちたま、多摩心理教育ネットワーク等  
様々な関係機関に協力頂き、大変有難く思っ  
ております。

### ⑤ 多摩棕櫚亭協会（略称棕櫚亭）との連携

すずかけのデイケアでは就労を評価的な視  
点で見えていませんが、就労を目標とする方の応  
援もしています。棕櫚亭さんには平成17年か  
ら、就労支援プログラム「出前講座」を担当し  
て頂き、就労準備アセスメントや就労相談をし  
て頂いています。その一環でスタッフ対象の勉  
強会もして頂きました。メンバーにとっては就  
労に関する選択肢の1つで、そこから他の施設  
を利用することもできます。

## 【令和6年度の抱負】

様々な人権問題には継続的に意識していき、  
医療であるクリニックにおいては殊更日々考  
えていきたいと思えます。

国分寺あゆみ会の講演会（11月24日予定）  
やNPO法人成年後見ウィルとご一緒させて  
頂く「親なき後」（仮名）の冊子作成に参加さ  
せて頂く予定です。

## 都事業のご紹介 精神障害者地域移行促進事業

地域移行コーディネーター 永井裕

地域生活支援センタープラッツは、2年のブランクを経て、この事業に戻ってまいりました。担当エリアは西多摩圏域と北多摩西部圏域の14市町村です。

この事業の目的は、精神科病院に入院している精神障害の方々、円滑に地域移行を図り、安定した地域生活を送るための体制を整備するとともに、精神科医療機関と行政や事業所との相互理解及び連携強化の推進を図るものです。『街で暮らす』ための体制を整備するお手伝いです。

具体的には、行政や事業所等と協力して、地域移行・地域定着を促進し、地域生活に関する体制づくりを支援していきます。また、精神科病院に入院されている方への動機づけ支援（退院意欲醸成）、病院プログラムへの参加やピアサポーターによる交流会等、病院内の地域連携支援体制の構築への協力などを行います。これらの事業はピアサポーターと協働して実施します。また、そのためのピアサポーターとの連携及びピアサポートの活用を推進するための体制整備も行います。

ピアサポーターの活用については、精神科病院に対し、スタッフへの普及啓発、活動に係る助言や相談等の支援をします。また、地域でのピアサポート活動について、情報提供を行います。ピアサポーターの育成については、精神科病院や地域関係機関に働きかけていきます。

はらからの家福社会にはLP活動（LPライフパートナー）というピアサポート活動があり、これまでも精神科病院からの退院を支援する活動をしてきました。地域移行を進めていくうえで『経験が専門性』であるピアサポーターの活動は大きな力となります。コロナ禍においてはオンラインでの活動が増え、直接病院等にアプローチする機会が減ってしまいました。今後、状況の移り変わりを踏まえつつ、病院訪問・プログラム参加の機会を増やし、ピアの支援力を生かして地域移行の体制整備を進めることが重要だと思えます。

病院は治療のための場所であって住むための場所ではないはずですが、必ずしもそうはなっていない現実を忘れずに取り組んでいきます。皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

## 新人紹介 ～今年度も同胞が増えました！～

ごあいさつ

五月にプラッツに入職しました甲田真砂子です。新人と言ってもあまり初々しい年齢ではありません。これまでは子育て中に始めたボランティア活動にのめりこみ、複数の団体を立ち上げたり運営したりしていました。

精神保健福祉に興味を持ったのもそれらの活動の中でした。ボランティア活動の担い手の中心は高齢者ですが、精神障害者も一定数いらつしやいます。障害をお持ちとは知らずに接し、トラブルになってしまったこともありました。

依頼されて精神障害者の方を受け入れることもありました。どんな困難をお持ちなのかもわからずに不安でいっぱいだった時、同行して間に入りお話しして下さった支援者の方にはとても救われ、ほっとしたことを思い出します。

一般の人々は精神障害者を歓迎する気持ちはありませんが、わずかな偏った知識しかなくてどうしたらいいのか分からないことがほとんどです。ほんの少しの支援がスムーズな地域支援につながるのだなと思えました。プラッツのメンバーさんは皆、これまでお話ししただけでも非常に個性的で魅力いっぱいの方々の方々のようです。一人一人の魅力が花開く地域活動のため、これまでの経験を精一杯生かしていきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

地域生活支援センタープラッツ 甲田真砂子

社会福祉法人 はらからの家福祉会

(自) 令和5年4月1日 (至) 令和6年3月31日

単位：円

資金収支計算書			
勘定科目		法人合計	
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	6,790,065
		障害福祉サービス事業収入	171,775,297
		経常経費寄附金収入	890,799
		受取利息配当金収入	2,696
		その他の収入	6,555,110
		事業活動収入計(1)	186,013,967
		事業活動資金収支差額(3) = (1) - (2)	△ 11,498,459
	支出	人件費支出	149,195,257
		事業費支出	4,821,598
		事務費支出	37,277,862
		就労支援事業支出	6,217,709
		その他の支出	0
		事業活動支出計(2)	197,512,426
		施設整備等による収支	施設整備等補助金収入
収入	施設整備等寄附金収入	500,000	
	その他の施設整備等による収入	0	
	施設整備等収入計(4)	851,980	
	支出	固定資産取得支出	6,104,654
その他の施設整備等による支出		326,000	
施設整備等支出計(5)		6,430,654	
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	△ 5,578,674		
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	2,510,725
		その他の活動による収入	1,150,000
		その他の活動収入計(7)	3,660,725
		支出	積立資産支出
	その他の活動による支出		11,616,725
	その他の活動支出計(8)		14,359,705
	その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	△ 10,698,980	
	予備費支出(10)	0	
	当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)	△ 27,776,113	
	前期末支払資金残高(12)	209,660,612	
当期末支払資金残高(11) + (12)	181,884,499		

※紙面上、当期合計のみ表示

令和5年度はグループホーム新設に向けた先行的な支出があったこと、過去分の消費税申告を行ったことから大幅な赤字決算となりました。令和6年度の活動により赤字解消を図ります。

事業活動収支計算書			
勘定科目		法人合計	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	6,790,065
		障害福祉サービス事業収益	171,775,297
		経常経費寄附金収益	890,799
		その他の収益	5,984,368
		サービス活動収益計(1)	185,440,529
		サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)	△ 15,958,118
	費用	人件費	151,626,501
		事業費	4,821,598
		事務費	37,096,414
		就労支援事業費用	6,914,494
		減価償却費	2,792,601
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 1,852,961
		サービス活動費用計(2)	201,398,647
		サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)	△ 15,958,118
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	2,696
		その他のサービス活動外収益	570,742
		サービス活動外収益計(4)	573,438
	費用	その他のサービス活動外費用	0
サービス活動外費用計(5)		0	
サービス活動外増減差額(6) = (4) - (5)	573,438		
経常増減差額(7) = (3) + (6)	△ 15,384,680		
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	351,980
		施設整備等寄附金収益	500,000
		その他の特別収益	0
		特別収益計(8)	851,980
	費用	基本金組入額	0
		固定資産売却損・処分損	2
		国庫補助金等特別積立額	351,980
		その他の特別損失	10,456,000
		特別費用計(9)	10,807,982
		特別増減差額(10) = (8) - (9)	△ 9,956,002
当期活動増減差額(11) = (7) + (10)	△ 25,340,682		
前期繰越活動増減差額(12)	208,058,791		
当期末繰越活動増減差額(13) = (11) + (12)	182,718,109		
その他の積立金取崩額(14)	1,350,000		
次期繰越活動増減差額(15) = (13) + (14)	184,068,109		

※紙面上、当期合計のみ表示



## 貸借対照表

令和 6年 3月31日 現在

社会福祉法人 はらからの家福祉会

単位：円

勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
流動資産	<b>191,181,251</b>	213,693,075	△ 22,511,824	流動負債	<b>17,612,235</b>	11,611,609	6,000,626
現金預金	<b>162,377,607</b>	185,919,859	△ 23,542,252	事業未払金	<b>3,481,620</b>	109,690	3,371,930
事業未収金	<b>25,730,751</b>	23,905,902	1,824,849	1年以内返済予定 設備資金借入金	<b>0</b>	0	0
未収金	<b>72,492</b>	0	72,492	未払費用	<b>3,486,715</b>	2,426,050	1,060,665
未収補助金	<b>2,720,000</b>	3,733,325	△ 1,013,325	職員預り金	<b>2,093,501</b>	1,363,734	729,767
前払費用	<b>280,401</b>	133,989	146,412	賞与引当金	<b>8,550,399</b>	7,712,135	838,264
固定資産	<b>200,087,762</b>	196,834,720	3,253,042	固定負債	<b>15,849,624</b>	14,267,369	1,582,255
基本財産	<b>104,758,247</b>	106,474,761	△ 1,716,514	設備資金借入金	<b>0</b>	0	0
土地	<b>60,312,050</b>	60,312,050	0	退職給付引当金	<b>13,195,824</b>	11,602,844	1,592,980
建物	<b>44,446,197</b>	46,162,711	△ 1,716,514	長期預り金	<b>2,653,800</b>	2,664,525	△ 10,725
その他の固定資産	<b>95,329,515</b>	90,359,959	4,969,556	<b>負債の部合計</b>	<b>33,461,859</b>	<b>25,878,978</b>	<b>7,582,881</b>
建物	<b>4,138,450</b>	2,064,393	2,074,057	<b>純資産の部</b>			
構築物	<b>1</b>	1	0	基本金	<b>40,440,959</b>	40,440,959	0
機械及び装置	<b>0</b>	0	0	国庫補助金等 特別積立金	<b>67,998,086</b>	69,499,067	△ 1,500,981
車両運搬具	<b>218,785</b>	11	218,774	その他の積立金	<b>65,300,000</b>	66,650,000	△ 1,350,000
器具及び備品	<b>5,261,755</b>	3,222,806	2,038,949	工賃変動積立金	<b>300,000</b>	300,000	0
権利	<b>8,000</b>	8,000	0	設備等整備積立金	<b>0</b>	650,000	△ 650,000
退職給付引当資産	<b>13,195,824</b>	11,602,844	1,592,980	施設・設備整備費等 積立金備等整備積立金	<b>65,000,000</b>	65,700,000	△ 700,000
長期預り金積立資産	<b>2,653,800</b>	2,664,525	△ 10,725	<b>次期繰越活動増減差額</b>	<b>184,068,109</b>	<b>208,058,791</b>	<b>△ 23,990,682</b>
工賃変動積立資産	<b>300,000</b>	300,000	0	(うち当期活動増減差額)	<b>△ 25,340,682</b>	556,052	△ 25,896,734
設備等整備積立資産	<b>0</b>	650,000	△ 650,000				
施設・設備整備費等積立資産	<b>65,000,000</b>	65,700,000	△ 700,000				
差入保証金	<b>4,328,443</b>	4,002,443	326,000				
長期前払費用	<b>214,457</b>	134,936	79,521				
その他の固定資産	<b>10,000</b>	10,000	0	<b>純資産の部合計</b>	<b>357,807,154</b>	<b>384,648,817</b>	<b>△ 26,841,663</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>391,269,013</b>	<b>410,527,795</b>	<b>△ 19,258,782</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>391,269,013</b>	<b>410,527,795</b>	<b>△ 19,258,782</b>

# はらからの家福社会賛助会コーナー

<令和5年12月から令和6年3月の間に会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

高見 法孝 栗原 ミチ子 植村 雅子 小林 美也子 藤沢 歩 武田 康男 田原 明夫  
辰田 智子 町田 三代子 藤田 綾 佐藤 桂子 森 美知子 大谷 泰造 川島 章子  
井上 洋子 江口 隆之 藤野 利太郎 小林 輝雄 松本 紀久代 鳥居 尚之  
東京学芸大学 福井研究室 匿名2名

## 令和5年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位:円

支 出		収 入	
役 務 費	5,390	賛助会費	334,000
郵便手数料	10,748	(101名)	
法人寄付金	320,000		
当期繰越金	17,621	前期繰越金	19,759
合計	353,759	合計	353,759

会員の皆様、本当にありがとうございます。今後ともなにとぞ宜しくお願いいたします。

※郵便振替用紙を同封させていただきましたので、令和6年度賛助会費(1口2千円) 何口でも結構ですでお振込みいただけると幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいております。匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。



### 【編集後記】

夏の暑さも年々厳しくなって、ますます身体のバランスを取るのが難しくなってきます。

生活の中では、睡眠をよくとって十分な休息を取ることが大事です。食材に体の熱を冷ます作用のある夏野菜を上手に取り入れて、氷やアイスクリームなどで逆に体の中心を冷やし過ぎないように心がけましょう。



熱中症にはくれぐれもご注意ください。

われら同胞編集委員一同

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会

〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

【発行人】障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定 価】¥120